演題番号 17	その人らしさを活かした「1日のスケジュール表」を用いた介入 ～脳出血・急性硬膜下血腫患者の日中の覚醒度の向上・ADL拡大を目指して～
発　表　者	市立三次中央病院　主任技師・看護師　濵田　夏帆
共同発表者	佐々木　智宏

脳神経外科患者の回復過程においては，医療従事者が積極的に離床を促し，生活リズムを整え，日中の覚醒を促すことが出来る環境を整える必要がある。今回，脳出血・急性硬膜下血腫の患者で，意識レベルの低下・見当識障害等のある患者に対し，元々の趣味等も取り入れた「１日のスケジュール表」を作成し，導入した。個別性にあわせた介入を行うことで，少しずつ日中の覚醒を促すことが出来，患者の覚醒度の向上・ＡＤＬ拡大に繋げることが出来た。患者の日常生活を取り戻すための生活リズムの調整は，回復過程を支援する看護師の重要な働きがけであったと考えるため，研究結果を報告する。

MEMO